

## 児童訪問支援 おこ SUN

### 2025 年度 自己評価・保護者等評価 総括

令和7年度に実施した保護者、訪問先施設及び職員を対象とした各種アンケート結果を総合的に確認したところ、当事業所の支援については、全体として概ね良好な評価を得ていることが確認された。

特に、利用児の状況把握、個々の特性に応じた支援、保護者への説明及び関係機関との連携に関しては、一定の評価を得ており、支援の実施にあたっての基本的な体制は概ね整備されているものと考えられる。保護者からは、利用児の園・学校等での様子について丁寧な報告があることや、子どもの理解や対応方法の整理につながっていることに対する意見が寄せられており、支援が家庭における安心感の醸成にも寄与していることがうかがえる

また、訪問先施設からは、訪問支援員による助言や説明について、具体性及び実用性の観点から一定の評価が得られており、訪問支援が施設内における支援上の参考として活用されている状況が確認された。加えて、職員からも、支援の継続性や利用児への個別的な対応に関して前向きな認識が示されており、事業所としての支援実践が一定の水準で提供されていることが確認された

一方で、改善を要する事項も確認された。

#### 保護者

訪問日程の事前共有、訪問後の報告、訪問時に施設へ伝えた内容のフィードバック等に関して、より丁寧かつ継続的な情報共有を求める意見が見られた。また、支援回数や支援時間の調整に関する説明について、十分な理解や納得につながっていないケースも認められたことから、支援内容のみならず、運用面における説明責任や情報提供体制の強化が必要であると考えられる

#### 訪問先施設

「課題や困りごとの解消・軽減」や「支援全体の満足度」に関して一定数の中間的評価が見られたことから、支援の意図や目的、支援後の変化等について、より具体的かつ共有しやすい形での説明が求められる。支援の成果が関係者間で可視化されることにより、訪問支援の有効性が一層明確になるものと考えられる

また、職員アンケートにおいては、支援員間での情報共有、教材や支援方法に関する意見交換の機会の充実を求める意見が見られた。今後、支援の質を継続的に向上させていくためには、個々の支援実践を事業所全体で共有し、組織的な支援力の向上につなげる体制整備が必要である

以上を踏まえ、今後は、現在の支援の強みを維持しつつ、下記の取り組みも行っていく

**①訪問前後の連絡・報告体制の整理、②支援内容及び支援成果の共有方法の標準化、③支援回数・支援時間等に関する説明の充実、④職員間の情報共有及び研修機会の確保**

今後も利用児及び保護者、関係機関にとって、より安心感と納得感のある支援体制の構築を図っていく。

以上